森中だより

10月号
令和３年 10 月 20 日発行
横浜市立森中学校　校長　吉原　準一

実験の成果は？

学校は、分散登校が終了し、10 月４日から、通常登校となりました。９月のオンライン授業の配信実験は、いかがだったでしょうか？９月２日から、10 月１日まで期末テストの期間を除き、実質 14 日間の今までにない実験でした。生徒の皆さんは何をどんなふうに感じましたか？実際の対面授業と比べてどうだったのでしょう？自分の言葉で担任の先生に報告しておきましょう。悲しいことですが、この実験の次の有効活用は、第６波の学級閉鎖の時となるでしょう。

今年度の第 13 回森奏祭は、中止となりました。「行事のない学校なんてつまんない。」とばかり言わずに、この機会を使って、担任の先生や、学年の先生と話をしてみませんか？何気ない会話の中でこそ、本音で話し、分かり合えることがあるはずです。そんな時間の使い方が、皆さんだったらできるはずです。

モクセイの花が、本格的に香りを放っています。朝方の南の空には、オリオンが現れています。

校長　吉原　準一

東京パラリンピック視聴して

パラリンピックは障がいのあるアスリートのオリンピックです。あるパラリンピック選手の言葉です。「僕は自分を障がい者だと思っていない。例えば、高齢者で体が動かなくなる。視力が落ちる。皆、それを障がいではなく、老いるという自分の一部だと考える。それに似ている。皆、何らかの障がいを抱いているといってもよい。大きな違いはない。」この選手のメッセージから、本当の障がいというものは、「自分にできない」と諦めてしまう心の壁で、自分を枠にはめてしまうことだと気づきました。

オリンピックに出場した１００m走の選手たちは、９秒代で走りぬけていました。それは人類が１００年以上もかけて縮めてきた記録です。

私の父は、今年９０歳になります。足腰が弱くなり立つのもやっとで、歩行にも杖をつかないと歩けません。心筋梗塞を患った父は、１００m先のポストに行くときは杖をつきながら一歩一歩確かめながら約１５分かけていました。父の姿を見ていると、目的を果たす為に老いとたたかいながらも「自分にはできる」という心の強さを感じました。私の中ではオリンピック・パラリンピック選手と同じぐらいのメダリストだと思っています。

副校長　新井　利秋

森中学校のホームページでも情報を公開しております。
「森中学校」で検索してみてください。
http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/mori/